

教育再生実行会議第4次提言を踏まえ、 高等学校教育部会でさらに確認・検討すべき論点（案）

1. 「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）」について
 - （1）試験の目的、活用方策
 - （2）入試での活用
 - （3）対象者
 - （4）実施方法
 - ・ 試験内容（※ 出題教科・科目の範囲）
 - ・ 試験形態（※ 筆記、マークシート又はその併用等）
 - （5）実施時期、受験回数、実施場所
 - （6）試験の名称
2. 生徒の多面的な学習成果の評価の仕組みの充実・活用方策について
3. その他

※ 「達成度テスト（発展レベル）（仮称）」の在り方を含めた、高校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策については、高大接続特別部会で審議（必要に応じ、本部会と連携）

教育再生実行会議第4次提言（H25.10）及び高等学校教育部会「審議の経過について」（H25.1）における高校教育の質の確保・向上に係る論点比較

1. 「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）」

①目的、活用方策

【実行会議】高等学校教育の質の確保・向上を図るため、高等学校の基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、各学校における指導改善や生徒の学習意欲の喚起、学習改善に活用

※ 「達成度テスト(基礎レベル)」(仮称)は高校の単位及び卒業の認定や大学入学資格のための条件とはしない

※ 民間の検定や各種試験との相互補完により、生徒の学習習慣の定着を図る方法も模索

【高校部会】高等学校全体の質保証の観点から、高校生として共通に求められる基礎的・基本的な知識・技能や思考力・表現力・判断力等に関し、その学習到達度を把握する希望参加型のテストを全国規模で行う仕組みを設け、各学校・生徒の希望に応じて活用できるようにするなど、客観的な把握に基づく評価の充実を図る。

②入試での活用

【実行会議】推薦・AO入試における基礎学力の判定に際して活用も可能とし、各大学の判断による活用を促進

【高校部会】例えば、就職やAO・推薦入試の場面などの対外的な場面において、自らの学力を証明できるようにし、生徒の学習意欲を一層喚起

③対象者

【実行会議】できるだけ多くの生徒が受験

【高校部会】全国の高等学校・高校生が希望に応じて参加

④実施方法（試験内容・形態）

【実行会議】高校教育課程における基礎的・共通的な教科・科目で、知識・技能の活用力・思考力・判断力・表現力なども含めた幅広い学力を把握・検証できるものとする

【高校部会】高校生として共通に求められる基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学習到達度を把握

※ 同調査に加え、学習時間や学習意欲など、高校生の学習状況を客観的に把握するための調査を定期的に行うことが必要

⑤受験回数、実施時期、実施場所

【実行会議】高校在学中に複数回受験できる仕組みとすることを検討

※実施時期、実施場所については今後の検討課題

【高校部会】※今後の検討課題

⑥試験の名称

【実行会議】「達成度試験（基礎レベル）」(仮称)

【高校部会】「高等学校学習到達度テスト」(仮称)

※ 試験の運営方法については、教育再生実行会議第4次提言において、大学入試センター等が有するノウハウ、利点を活かしつつ、達成度テスト（発展レベル）（仮称）と相互に連携して一体的に実施することと提言されている。

2. 生徒の多面的な学習成果の評価の仕組みの充実・活用方策

【実行会議】

- 国及び地方公共団体は、ジュニアマイスター顕彰制度や職業分野の資格なども活用し、生徒の多面的な学習成果の評価の仕組みを充実し、生徒が進学や就職にも活用できるようにする
- 学校は、教育活動の質を向上させていくため、自らの教育活動の成果等を不断に検証する学校評価を通じて学校運営の組織的・継続的な改善を図るとともに、積極的な情報発信を行う

【高校部会】

- 幅広い資質・能力については、評価の妥当性の確保や信頼性の向上に向け、評価の手法や評価指標等に関する調査研究を行い、その成果を踏まえ、評価の取組を進める
- これらの研究成果については、必要に応じ、指導要録の様式の見直し（記載事項の改善）などによる学習評価の充実につなげていくことも検討
- 生徒の学習状況の評価だけでなく、その評価の結果を生徒に適切にフィードバックしつつ、日々の指導の改善・充実を図る。国においては、各高等学校・教員におけるこうした指導改善への取組を支援・促進していく